

第25回五位組夏休み子ども大会

高岡市辻 西福寺 豊原正靖



2026年
(令和8年)
10月7日

五位組だより

念仏のこころに生きる生活を

浄土真宗本願寺派
高岡教区 五位組

題字・織田隆夫

今年の五位組夏休み子ども大会は、辻の西福寺で開催されました。今回は「スライム&スクイーズ作り」の体験を中心に企画し、遠くは氷見や砺波からも参加してくれました。現在SNSを中心に流行していることもあり、子どもたちは自分だけのオリジナル作品作りを熱心に楽しんでいました。

今年の子ども大会のチラシを配っている時、お参り先で二十歳くらいになった青年から、「小学生のときに子ども大会に参加したことを今でも覚えています」と声をかけられました。当時はBMX（自転車競技）を披露したのですが、「今でもお寺の前を通ると、当時の凄い物を見たという気持ちを思い出します」と話してくれました。もう十年以上前の話です。普段は思い出すことはないでしょう。しかし自分が参加したお寺の前を通ると当時の思いが甦ると彼は言ってくれたのです。

子ども大会に参加した事のない人にとつては普段お寺の前を通っても何も感じないと思います。ただの風景の一部に過ぎません。しかしこれまで参加してくれた人たちの中にはそれぞれ参加したお寺の前を通る時、子ども会の思い出が甦る事があるのだと思います。

そしてこの子ども大会は毎年テーマは変われども一貫している事があります。それは手を合わせてお参りする事です。今世の中は色々な情報に溢れていて、私たちは起きた時から寝る寸前までスマホを触り、知りたい事があればすぐに知る事ができます。それは凄く便利ですが、クリック一つで自分なりの答えに辿り着くため途中の大事なプロセスが省かれてしまう側面があります。最近の子供たちは何でもよく知っていますし凄く弁も立ちますが、それは自分の実体験ではなく、ネット上であったりAIが教えてくれた物を言っている事が多い様に感じ少し危うさを感じてしまうのです。

お参りをするという事は体験であり、それは思いもよらないくらい昔から受け継がれてきた事です。そして手を合わせている時はいろいろな情報は入ってきませんし、自分自身を見つめ直す時間にもなるのです。一見意味の無い事として思われがちですが、実は意味の無いと感じる中にこそ大事な物があるのだと思います。普段は会う事のない子供たちがこの会を通じて色んな体験をし成長する過程で、経験として人生を豊かにする手助けになればと願っています。

住 職 イン タ ビ ュ ー

三 日 市 光 源 寺
江 畠 教 英 さ ん

① 最近ハマっていることは？

十五年前程より始めたゴルフなのですがその奥の深さにハマっています。ゴルフはミス如何に減らす事ができるかを競うスポーツです。負けず嫌いな人がハマりやすいのかも知れません。また今年、私は還暦を迎えましたがゴルフは年齢を問わずに楽しめるスポーツです。二十代の若者達、そして喜寿や傘寿を迎える大先輩達とも和気藹々（あいあい）とゴルフを楽しんでいます。

② お坊さんになってからの失敗談

お坊さんあるあるなのです

が正座における失敗談は絶えません。正座が苦手なのは言うまでもありませんが三十分程度の読経に際して何度も何度も立てなくなり恥をかいてきました。お坊さんと言う見栄を捨てる事は難しいですね（笑）。

③ 新米僧侶の頃の自分に一言

令和 8 年 4 月より、光源寺第 18 世住職を継承致しました。前住職の傍らで三十年余り僧侶をしてきましたがその当時の自分には「ほんと自分勝手な煩惱だらけな人間だったな。少しは僧侶として改心しなさい。」と活を入れたいです（笑）。

④ これからどんなお寺を目指していきたいですか？

時代の流れには逆らえない中、門信徒の皆様には勿論、地域の方々にお寺に行けば楽しいなと思って頂けるお寺を目指して行きたいです。

仏 教 語 ア ラ カ ル ト

教願寺 前住職 岡西法英

その⑪
名号みょうごう

南無阿弥陀仏を阿弥陀如来の名号と呼びます。名という文字は、名なのりという意味です。すぐそばにいても、気づかない私たちに對して、あなたのそばにいるよ、阿弥陀如来だよという名のりをあげて下さっている姿だということです。

また号という文字は大声で呼びかけるという意味です。名のつても名のつても背を向けて離れてゆこうとする私たちがあるからこそ、大声で呼びかけていて下さる阿弥陀如来であることを意味しています。

逃げ、そむくことしか知らない私たちであることを、はじめから見抜いた上で、それでも耳

だけは開きっぱなしの私たちであることに着眼し、耳から流れ込む南無阿弥陀仏の名号となつて耳から心の中へと忍び入り、反発や疑いの扉を内側から押し開いて、光となつて差し込もうというのが、五劫という果てしない時を費やしての思案の果てに見出し出て下さった、一切の悪人罪人をも救い取ろうという阿弥陀如来の作戦であつたのです。

このことを聞き開き、喜んだ先人たちは、「ああ、勿体ない。お恥かしい。有難い。」と言い、「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」と称えたのでした。

報 恩 講 ご 案 内

各寺院の日程順に記載してあります。

石堤 法善寺

10月8日 朝 9時半
法話 戸出六十歩 昼 13時半
林 要昭 師

赤丸 性宗寺

10月11日 昼 13時半
法話 射水市市井 公文名 眞 師

四日市 浄明寺

10月14日 朝 9時半
10月15日 朝 9時半
法話 射水市市井 公文名 眞 師
※ 14日は永代祠堂経法要

辻 西福寺

10月16日 朝 10時
法話 高岡市伏木 山名 一徳 師

中保 善教寺

10月17日 昼 13時半
法話 高岡市佐加野 磯原 孝雄 師

立野 永念寺

10月19日 朝 9時半
法話 未定

三日市 光源寺

10月22日 朝 9時半
法話 高岡市佐加野 昼 13時半
磯原 孝雄 師
※ 昼座は住職継職法要

佐加野 光明寺

10月27日 昼 13時半
10月28日 朝 9時半
法話 高岡市内島 岡西 好持 師他

内島 教願寺

10月30日 昼 13時半
10月31日 朝 9時半
法話 射水市朴木 青木 哲隆 師他

石堤 長光寺

11月1日 朝 9時半
11月2日 朝 9時半
法話 氷見市布施 昼 13時半
圓山 望 師

笹川 廣濟寺

11月3日 昼 14時
11月5日 朝 9時半
11月6日 朝 9時半
法話 高岡市伏木 山名 一徳 師

麻生谷 西光寺

11月7日 朝 9時半
11月8日 朝 9時半
法話 氷見市脇 昼 13時半
寺西 良夫 師

上向田 浄永寺

11月12日 朝 9時半
法話 高岡市佐加野 昼 13時半
磯原 孝雄 師

山岸 珉照寺

11月16日 昼 13時半
11月17日 朝 9時半
法話 高岡市伏木 山名 一徳 師

舞谷 永賢寺

11月23日 朝 9時半
法話 高岡市内島 岡西 好持 師

詳細は各寺院にお問い合わせください。

第 1 2 期連続研修会について 五位組組長 麻生谷 西光寺 養藤直哉

五位組では既に過去 11 期の連続研修会を開催してまいりました。しかし、新型コロナウイルスの流行等により第 12 期の連続研修会は長く開催されておりませんでした。

連続研修会には 2 つの面があります。その一つは浄土真宗の勉強会であるということです。参加された方は浄土真宗の教えについて学ぶことができます。特に今回は仏具の並べ方や焼香の作法といった「はじめて仏教を学ぶ方」向けの入門講座も行う予定です。

これから自分が仏壇やお墓の世話をしなければならなくなったが、何も分からないし誰に聞けばよいかも分からない。少しは分かっているつもりだが、本当に正しいのかどうかわからない。通常は学校で仏教や浄土真宗について学ぶことはありません。正しい

ことを基礎から学べるよい機会になると思います。

もう一つの面は、連続研修会を修了することで本願寺で行われる中央教修をうけることができ、それを修了することで「門徒推進員」という役職に就けることです。門徒推進員は僧侶と協力して布教を行う役割を担います。

連続研修会では教えを基礎から学ぶことができ、さらに学びたいという気持ちがあれば中央教修に参加して門徒推進員になることもできるのです。

このような機会はそうありません。たくさんのご門徒さんが連続研修会に参加されますことを願っております。

五位組第 12 期連研募集

時期 2027 年 3 月

2028 年 2 月（全 12 回）

参加費 一万円（全 12 回分）

申込先 五位組各寺院まで

令和 8 年 8 月大雨

災害義援金・支援金募金

この度の大雨災害では、この高岡教区内においても甚大な被害がありました。

ついては、五位組内の各寺の報恩講において、募金箱を設置させていただきます。集まった募金は高岡教区の窓口にお渡しします。皆様のご支援・ご協力のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

被災地の能登へ

支援米を届けよう！

昨年 11 月に輪島市門前町（仮設住宅等）に 2 キロの新米を約 400 世帯に配布した支援米を今年も募集いたします。何卒ご支援のほど、宜しくお願い致します。

受付期間

11 月上旬

午前 9 時半～午後 5 時

受付場所

高岡教区教務所

（高岡市東上関 446）

TEL 0766-22-0887

編集後記

令和 8 年 8 月の豪雨にて被災された皆さまに衷心よりお見舞い申し上げます。

今年の夏は、日照りによる水不足の一方で、記録的豪雨からの長雨という極端な気候が続きました。農業はもちろん、様々な方々が大変な思いをなさったことだと思います。

自然は豊かな恵みも与えてくれますが、厳しい現実も私たちに突きつけます。思い通りにならない現実に対して、仏教の教えというのは一体何を私たちに伝えてくれるのでしょうか。

五位組では来年からいよいよ連研がスタートします。仏教がどんなヒントをくれるのか、ぜひ一緒に聞いてみませんか？心からお待ちしております。